



試験ほ場(水稲)

矢部試験地
(農産園芸研究所作物研究室)



矢部試験地は、上益城郡山都町にある、農産園芸研究所作物研究室の試験地です。

高標高地の寒冷な気候に適した品種の選定や、栽培技術の改善のための技術確立に取り組んでいます。

主に水稲に関する研究を行っており、原原種(原原種から原種が、原種から採種、採種から一般に利用される種子が生産されます)を生産しています。

DATA

上益城郡山都町上寺
1417

農研タイムトラベル

— 原蚕種製造所の設立 —

今回は明治44年に農事試験場と同時期に設立された原蚕種製造所について紹介します。

日清、日露戦争以降、農業恐慌による米価や雑穀を中心とした特用作物の価格低落、軍備拡張に伴う重税により農家経済は窮乏に陥りましたが、このような中、農民は経営の建て直しを図るため、換金作物の養蚕へと向かいました。

本県でも、明治28年から44年にかけて、畑地のうち桑園の占める割合が1.4%から6.4%に、農家戸数のうち養蚕戸数の占める割合が8.8%から23.3%に、産繭額が約6倍にと大幅に増加し、このように、養蚕業が大躍進している中に設立されました。

主な業務は原蚕種の製造配布や蚕品種の改良試験

で、大正11年には蚕業試験場に改称され、明治から昭和初期にかけて日本の外貨獲得のための最大の商品であった生糸、絹製品の生産に大いに貢献しました。



蚕業試験場(熊本市南千反畑町)

こんなものあるよっ!(10~12月)

農産園芸研究所、畜産研究所(合志市)

- ・くまもと農業アカデミー 最新栽培技術コース「トルコギキョウ」(11月18日)
- ・熊本県花き品評会(12月上旬) ・畜産関係業績発表会(11月下旬)

果樹研究所(宇城市)

- ・果樹関係研究成果発表会(10月25日) ・尚綱大学くだもの収穫体験(10月30日)

茶業研究所(御船町)

- ・熊本県茶品評会(茶園の部)審査(10月下旬~11月中旬)

い業研究所(八代市)

- ・熊本県い業大会表彰式(10月19日) ・岩崎神社秋季例祭(11月15日)

球磨農業研究所(あさぎり町)

- ・研究成果発表会(11月27日) ・球磨地方クリ冬期せん定研修会(12月中旬)
- ・くまもと農業アカデミー 最新栽培技術コース「クリ(ぼろたん)」(12月18日)

天草農業研究所(天草市)

- ・JAアグリフェスタ(11月13日)

詳しくは、各研究所にお問い合わせください



〒861-1113
熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
www.pref.kumamoto.jp/site/493
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 情報課 までご連絡ください

管理部
総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部
企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444

生産環境研究所
環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病害虫研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433

茶業研究所
096-282-6851

い業研究所
育種・栽培研究室
加工研究室
作付体系研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所
0967-32-1231

果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723

高原農業研究所
0967-22-1212

球磨農業研究所
0966-45-0470

天草農業研究所
0969-22-4224

農研NOW

秋号
平成24年10月

目次

- 稼げる農業を目指して P.1
今、試験研究中の課題はこれ
- Q&A テクノロジー P.3
タメになるミニミニ情報
- 農研タイムトラベル P.4
農業研究100年の歴史
- こんなものあるよっ P.4
視察研修ならこれいかが?

みのりの秋

暑かった夏が過ぎ、だんだんと秋めいてくる中、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

今年の夏はすさまじい雨とジリジリ暑い気候で、近年の異常気象を物語っているようでした。

特に阿蘇地方では7月12日に時間雨量100mmを超え、日合計500mmもの豪雨が降り、各地に大きな傷跡を残しました。ここに被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。

10月に入り実りの秋を迎えたことで、店頭にも美味しい農産物が並び皆様も舌鼓をうっているのではないのでしょうか。

農業研究センターとしても、生産者の方々にさらに多くの実りがもたされるよう、新たな品種や技術開発など試験研究に努めてまいります。



稼げる農業を目指して

い業研究所 (い業部門)



いぐさの交配(5月)

本県のいぐさは、面積・生産量ともに全国の90%以上を占める、ほぼ国内でオンリーワンの産地です。い業研究所では、いぐさ(全国)品種の育成と選定、栽培・加工技術の改良開発や種苗の原原種生産を行っています。

(1) いぐさ新品種の育成と選定

これまで「ひのみどり」「夕風」「ひのはるか」等の県オリジナル品種を育成しており、この3品種で県内栽培面積の約85%を占めています。現在は、耐暑性に優れ、良質な畳表が生産できる品種の育成を進めています。また、豚の補助飼料としての可能性を探るため、県畜産研究所や東海大学等と連携し、いぐさの機



収穫作業(7月)



加工特性調査

能性等に関する研究も進めています。

(2) 栽培技術の開発と乾燥技術の改善

県オリジナル品種の安定多収栽培技術の開発や、燃油高騰対策として乾燥技術の改善に取り組んでいます。

(3) 畳・木材の効能に関する調査

熊本県産畳表・木材の需要拡大のため、これらが持つ様々な機能(温度・湿度の調整、衝撃の吸収、音の吸収等)に関する研究を、県立大学、県産業技術センター、県林業研究指導所と共同で取り組んでいます。また、保育園や大学講義室に畳を敷き、畳が人に及ぼす効果についても調査を行う予定です。

ラボからこんにちは

農業研究センターは、県内各地に点在する、7つの専門研究所と3つの地域研究所の合計10の研究所から構成されています。このコーナーでは、これらの研究所をピックアップして紹介します。



生産環境研究所



生産環境研究所は、合志市(本所)にある、グリーン農業の推進など環境に関する専門研究所です。

ここでは環境保全研究室、施設経営研究室、病害虫研究室、土壌肥料研究室の4つのセクションで、農産物生産を取り巻く環境について様々な研究を行っています。

環境保全研究室では農業生産が環境に及ぼす影響に関する研究を、施設経営研究室ではハウス施設の効率的生産技術の開発を行っています。また、病害虫研究室は農産物に被害を及ぼす病害虫の対策の研究を、土壌肥料研究室では効率的な施肥技術の開発などに関する研究を行っています。

DATA

合志市栄3801
tel 096-248-6447



太秋



ブラックビート



秋麗



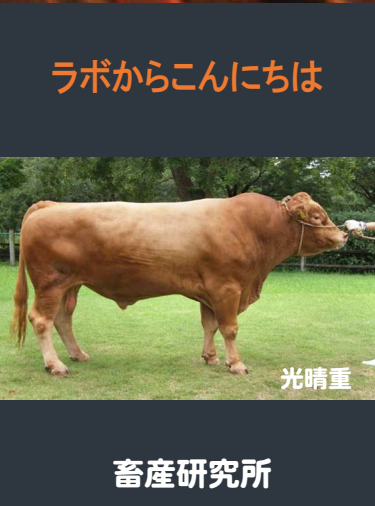
ほうれん草



茶



モモ



光晴重

ラボからこんにちは

畜産研究所



畜産研究所は、合志市(本所)にある、畜産の専門研究所です。

ここでは大家畜研究室、中小家畜研究室、生産基礎技術研究室、飼料研究室の4つのセクションで、畜産に関する様々な研究を行っています。

大家畜研究室では主に肉用牛と乳用牛、中小家畜研究室では豚と家きん(ニワトリ)について飼養技術や高生産性技術に関する研究を行っています。また、生産基礎技術研究室では肉用牛の種雄牛作出に関する研究を行い、飼料研究室では家畜の飼料(工サ)や糞尿の適正処理など畜産環境に関する研究を行っています。

DATA

合志市栄3801
tel 096-248-6433

果樹研究所

(落葉果樹部門)



皮ごと食べられる
シャインマスカット



ブドウの調査



カキ「太秋」の軟化対策
(上: 軟化果実、下: 通常果実)

落葉果樹(ナシ、クリ、モモ、スモモ、ブドウ、カキ)の優良品種選抜や、栽培技術の開発に関する研究を行っています。

(1) 優良品種の選抜

国などが育成した品種・系統から、果実品質がよく本県の栽培条件に適した品種・系統を県推奨品種候補として選定するため、栽培性等を調査研究しています。最近では、ナシ「秋麗」や「あきづき」、クリ「ぼろたん」、カキ「太秋」、ブドウ「ブラックビート」等が県推奨品種に選定されています。

現在も引き続きナシ、クリ、モモ、カキ、ブドウで優良品種候補を選抜するため調査を実施しています。

(2) 栽培技術の開発

今後の消費需要が期待される、食味のよいナシの「秋麗」や「あきづき」、皮ごと食べられるブドウの「シャインマスカット」、果実が大きく食味のよいカキ「太秋」等について、果実品質や収量を上げるための試験や、現在生産現場で問題となっている落葉果樹の生理的な障害(ナシのみつ症や発芽不良、カキ「太秋」の軟化果実)を軽減する技術の開発を行っています。

球磨農業研究所

球磨地域の盆地中央部には水稲や野菜、タバコなどが、畑地では露地野菜や茶、落葉果樹などが生産されています。球磨農業研究所では、球磨特有の気候や地理条件に適した優良品種の選定や栽培技術の開発に向けて試験研究に取り組んでいます。

(1) 作物部門

水稲、麦、大豆について球磨地域に適した品種の選定を行っています。また、地域ブランドである「球磨焼酎」原料米の低コスト・多収技術を確立するための研究を行っています。



職員総出で田植え



茶園での収穫作業



消費拡大が期待される
クリ「ぼろたん」

(2) 野菜部門

加工原料として栽培されているトウガラシやほうれん草、甘藷などの露地野菜について生産安定技術を開発して、球磨地域で加工される野菜の地元産シェア拡大を目指しています。

(3) 茶業部門

寒暖の差が大きい内陸性の気候に適した優良品種の選定を行っています。また、黒ボク土壌が多くを占める球磨

地域の茶園において、微量元素を補給することによる荒茶品質の改善を図っています。

(4) 果樹部門

施設栽培に適した早生モモの優良品種の選定を行っています。また、ニホングリで唯一渋皮が剥けやすいクリの新品種「ぼろたん」について、若木期の安定生産技術の開発や防除適期の把握を行っています。

Q&A テクノロジー

Q: 特許権ってなに?

A: 特許とは、単なる発見ではなく創作であり、産業上利用可能、新規性、進歩性等が認められる思想やアイデアのことです。

これを特許庁に出願することで、一定期間、一定の条件のもとに発明者に与えられる独占的な権利のこと



を特許権といいます。

農業分野でも多くの特許権が取得されています。

この特許権は、発明の保護を図る一方、その発明を公開して利用を図ることにより、新しい技術を共通の財産とし更なる技術の進歩を促進し、産業の発達に寄与することを目的としています。